

2016年7月15日

平成28年度春の实地見学会実施報告

- 1 日 時：平成28年7月12日（火）10：20～15：40
- 2 見学先：ヤマサ醤油、犬吠埼灯台
- 3 参加者：41名
- 4 実施内容

9：20に銚子駅に参加者が集合し、待ち受けていたボランティアガイドの案内でスタートした。最初に駅前の銚子生まれで詩人であり作家の国木田独歩の碑から案内を受け、次に安政南海地震において津波の来襲から村人を救い、その後「稲むらの火」として知られたヤマサ醤油第7代濱口梧陵の碑に立ち寄ってヤマサ醤油工場を訪れた。



国木田独歩の碑の説明



濱口梧陵の碑の説明

最初にヤマサの生い立ち、醤油の原料、醤油の醸造など映画を見て知りました。

工場見学に入り、高さ20メートル200トンから500トンの大きな原料サイロが並び、工場内の麹室、大きなもろみタンクが並ぶ仕込み蔵等はスペースが設けられそこで、ビデオの説明がありましたが、製品の容器への詰め込みは新設の成田工場で行われているとのことで、見られなかったのが物足りなさを感じた。



ヤマサ醤油の説明



美加保丸遭難の説明

最後にバーチャル体験で、直径6メートルの大きな樽を模したスペースの中に入り、もろみから醤油になるまでの変化を足元の映像と音で楽しみ、まるで自分が本物の大樽

の中にあるような感覚で醤油作りの過程を観察でき、自分の動きが映像に反映される“タップトーク”に変わり、醤油の上で足を動かすと、醤油の波紋が投影され、まるで醤油の上を歩いているような疑似体験ができました。

見学を終わって、昼食会場の「一山いけす」のバス2台に分乗し、ガイドの案内で銚子駅前に出て、利根川に向かい2代目銚子大橋を眺めながら利根川沿いを第1魚市場、近くの製氷工場では魚にやさしい海水で氷を作っていることや、利根川と海の境ははっきりしており、その境は運河の堤防に「0、0」の標識が貼り付けられておる。銚子の魚市場は入札で価格を決めており、他の市場はせりで決めているので大きな違いとのこと。海難が多かったので、千人塚の説明、第2、第3魚市場を経て、銚子の古代の地層説明を聞きながら昼食会場へ。皆さんが楽しく昼食をいただきました。

食後は昼食会場前にある「美加保丸遭難碑」の説明を受けました。慶応4年8月に、戊辰戦争の過程で幕府の海軍の副総裁榎本武揚指揮のもとに北海道へ逃亡を企てた幕府軍艦8隻は銚子沖で暴風に遭い、その中の美加保丸が黒生海岸で沈没した。死者は13名で漂着の場に葬られた。地元民は今でも碑に花をたむけている。

その後、犬吠埼灯台にバスで移動し、犬吠埼の地層や灯台の説明をうけた後ガイドさんの案内は終了した。



記念の集合写真



資料館の初代レンズ

私たちは灯台見学に移り、各自最初に灯台に登る方や資料館を見学される方と自由行動となりました。

灯台はイギリスから招いた灯台技師ブラントの設計施行監督により、明治5年9月に着工、同7年1月15日に完成し初点灯された。当時白レンガはなかったので日本初の白レンガが現在の成田市で製作され、その数は19万3千枚を要した。レンズは第1等フレネル式で光達距離は36キロ。

平成22年4月28日国の登録有形文化財に登録された。また、世界の灯台100選、日本の灯台50選に選ばれている。

灯台は99段の階段+13段の梯子段を登り、おどり場に出ると太平洋や周囲の眺望が開け眼下になぎさ100選の君ヶ浜が見えました。また、階段は以前には無かった板張りされ手すりがついておりました。資料館は初代のレンズをはじめ灯台に関する資料が展示されておりました。

灯台見学後は、徒歩で銚子電鉄犬吠駅に行き、同駅からのんびり走る電車に揺られ銚子駅に到着して解散となりました。

(文責：企画チーム 平野登世司)